

- 経済の長期低迷、人口減少・高齢化、グローバル競争、環境・資源・エネルギー・食糧制約、知識経済化・オープン化等、内外環境が変化する中、科学・技術を基点としたイノベーションによる持続的成長の源泉創出と国家的課題の解決が不可欠。
- 科学技術の振興を主眼とした従来の科学技術政策では、イノベーション創出とその成果の国民の享受に限界。欧米・アジアの主要国もイノベーション創出しのぎを削っており、現状のままではわが国の国際競争力も低下懸念。
- 将来あるべき姿やパラダイムシフトを捉え、アジアはじめ世界との繋がりを強化しつつ、国民の視点を踏まえた総合的な「科学・技術・イノベーション政策」を戦略的に推進すべき。持続的成長と環境保護の両立を目指すグリーン・イノベーション等を国を挙げて実現。

### 2つの基本理念と5つの経済社会像

#### 1. 国力増進と国民生活の豊かさへの貢献

#### 2. グローバル社会における競争と協力

世界のニーズに応え持続的に成長

経済成長と環境保護を両立

安全・安心・快適な生活を実現

健康・長寿な生活を実現

国民の知的豊かさを実現

### 中期政策の4つの基本的方向性

#### 1. 総合的な科学・技術・イノベーション政策の推進

#### 2. グローバルなオープン・イノベーションの促進

#### 3. 個人・組織のイノベーション創出力の強化

#### 4. 国民の視点からの「見える化」と国民参加の強化

### イノベーション創出に向けた戦略的取組み

「課題解決型アプローチ」を基軸に「革新知創造型アプローチ」を有機的に組み合わせて推進

#### 1. 課題解決型アプローチ

- 「政策課題別戦略」の策定(グリーン・イノベーション戦略を先行)、「社会システム」を構成する複数技術・制度の設定
- 産学官対話・連携の場の形成(非競争領域のプラットフォーム、拠点、国家プロジェクト)
- 戦略に基づく選択と集中による資源配分
- 規制改革等を組み合わせた「社会システム実証」の推進

#### 2. 革新知創造型アプローチ

- 多様な研究開発の推進(基盤研究への配慮)
- 安定的な予算確保(分散投資、若手への配分)
- 異分野融合や挑戦を促す支援制度の充実
- 革新知のイノベーションへの橋渡し(成果情報の共有・流通、目利き人材の育成)

#### 3. 両アプローチのグローバル展開(日本のイノベーション・ハブ化)

- 革新的な知の創造・融合を生み出す環境整備(内外の優秀な人材獲得・外国人受入れ環境の整備、税制・知財・規制等の国際的に遜色ない事業環境整備、拠点・ナショナル・プロジェクトの見直し)
- 環境・エネルギー等の地球規模の課題解決に向けた国際連携(国際共同研究・実証、ODA等を活用した技術移転)
- 国際標準化戦略の推進(戦略策定、東アジア等との研究開発・実証との連携によるネットワーク構築、人材育成)

### イノベーション創出基盤の強化

#### 1. 推進体制

##### (1) 政府

- イノベーション政策推進のための法制見直し(研究開発力強化法等)
- 司令塔機能強化(国家戦略との連動、資源配分、関係府省・独法との関係、メンバー構成等)

##### (2) 企業

- 研究開発促進税制の拡充・恒久化
- 民間投資と政府投資の連携強化(マッチング・ファンド、ハイリスク研究支援)
- 研究開発ベンチャー支援

##### (3) 大学、研究開発法人

- 大学毎の特色の明確化、特色に応じた運営と政策的支援
- 政策目的実現の観点からの研究開発法人の見直し、再編・統合、運営の効率化等

#### 2. 予算・資源配分

- 政府研究開発投資の拡充、総額目標の設定(対GDP比1%超)
- 資源配分の中期方針の策定(実証、環境分野の予算の拡充)
- 運営費交付金の一律削減の見直し、配分基準多様化
- 複数年度化、事務処理の簡素化

#### 3. 人材育成

- 大学・大学院(基盤的教育を含む体系的コースワークの充実、博士課程の入口・出口管理の徹底、経済的支援)
- 初等中等教育(教員の質向上、理数教育の充実)
- 研究開発法人(海外人材活用、人事交流、人材育成機能)
- 企業(長期インターン、人事交流、倫理憲章の遵守)

#### 4. 国民参加

- 若者への魅力向上と共感
- 国の説明責任の履行(国民の視点からの評価等)
- リスク・コミュニケーションの強化